

平成29年度 地域連携活動報告書

連携先名称	川場村	担当教員	地域創成科学科 宮林茂幸
活動状況	継続中	関連教員	入江彰昭
協定締結日	平成24年1月20日	活動資金	世田谷区と川場村の事業費
活動内容	地域創成科学科は群馬県利根郡川場村にて第1弾、第2弾と地域交流実習を実施した（集中講義）。 農家の方々に直接指導を受けながら、第1弾ではべに花の種まき、電気柵の補修、草刈り、里山の遊歩道整備・伐採等、様々な作業を行った。 地域交流実習の第2弾では、川場村の特産品でもある「リンゴの摘花作業」を行った。川場村で実施しているあ里山自然学校のリーダーとして学生たち20名を派遣（夏：4泊5日、冬：3泊4日）また、森林体験教室や養成教室など川場村で実施しているイベントに学生たちも参加した。		
活動成果	第1弾 べに花の育て方、作業の指導を受けた。夜の「村民の方々による語り部交流（ワークショップ）」では、昼に行った作業の意味や獣害対策の大変さなどを伺った。また、川場村の里山の遊歩道整備・伐採作業では村のエキスパートの方から直接指導を受けながら、ナタやノコギリを駆使し作業を行った。 第2弾 形が整った良質なリンゴを作るために、必要不可欠な作業である「摘花作業」を行った。「摘花作業」とはリンゴの中心花以外をハサミで切り落としていく作業で、さらに摘果作業で1～2個になるまで「すぐって（選りすぐって）」いく。判断が難しい枝の対応方法などプロの技もたくさん教えてもらった。夜は、川場村を一代でリンゴ王国に変えたパイオニアである宮田光雄さんから「リンゴ栽培を始めた意外な理由から世田谷区との出会い、都市と農村の交流、これからの果樹ビジネス」を講演していただいた。 2日目の作業は「ヤエヤマブキ」と「アナベル」の植栽を行った。農家の方々ともディスカッションを繰り返し、学生は「地域創成」のあり方が見えてきたのではないかなと思う。 実習後は川場村での体験をもとにグループディスカッションやパネル作成を行い、地域特有の文化を活かした六次産業化・観光計画など多面的に物事を考える素養を習得。最後に全員の前で「プレゼンテーション」を行った。		
課題・改善点	学科実習のフィールドとして適正かどうかを再検討する必要があること。季節的な農作業に対して、実習の時期を検討する必要があること。実習機材や資材の保管場所の検討、空き家の活用などの課題がある。また、里山自然学校に協力する学生たちに対して、ボランティアなどの単位化等が課題といえる。		